

猪之鼻奨学会

編集発行者

猪之鼻奨学会

千葉市中央区亥鼻1丁目8番1号
〒260-8670 千葉大学医学部内
電話 043-226-2509 内線 5024

創立 1915年(大正4年)

猪之鼻奨学会報 第14号 題字 井出源四郎(第八代千葉大学学長)

献体を使った手術トレーニング

—脳神経外科の立場から—

医学研究院教授

佐伯直勝

はじめに
二〇〇六年より昨年末までに、千葉大内外の脳神経外科医と医学生有志を対象に、献体を使った手術トレーニング(千葉神経内視鏡ハンズオンセミナー)を開催した。二〇〇七年と二〇〇八年には、学内の医師を対象に顕微鏡下の頭蓋底手術トレーニングコースも同時開催した。今後も開催していく予定である。献体を使った手術トレーニングから期待するものとの問題点を提示する。

手術トレーニングコース開催の経緯、目的、結果
手術トレーニングコースを開催した経緯を述べると、脳神経外科手術法の目覚ましい進歩は、過去三十年間のCTスキャン、MRIに代表されるコンピュータを駆使した画像技術の進歩と、顕微鏡下の手術法と周辺機器の発展によるものが大きい。特に手術法の進歩が大きい。一般の脳神経外科医を対象とし、献体を使った講習会が国内外の各地で行われ、手術操作法を習得し手術解剖を習熟する地道な努力によるところが多い。

神経内視鏡手術は一九九〇年代になり普及してきた。神経内視鏡の脳神経外科領域への導入は、画期的な低侵襲手術と、顕微鏡で観察しづらい部分の直視下の操作を可能にした。しかし、その歴史は浅く、安全な手術法として普及するには、本手術法に特有な器具の開発と手術手技の習得が必須である。学会

の主導のもと、神経内視鏡の技術認定制度が開始された。これは、技術レベルの評価制度を確立し、その向上が強く社会から望まれていることを示す。

本ハンズオンセミナーの目指すものは、神経内視鏡下手術法を低侵襲でより安全な手術法として普及させ、次世代の本手術法を担う医師の育成である。一日目は下垂体手術、二日目は脳室内操作、血腫除去の習得である。一年目、二年目とも各二十五人あまりの参加者があった。献体では、骨組織は死後の変化が少なく、下垂体部・頭蓋底手術のトレーニングには最適だ。一方、出血しにくく、軟部組織や粘膜炎は萎縮・硬化化しており、生体とは感触が異なる。

最終日には、アンケートをとった。内視鏡の手術操作と器具に慣れたこと、手術解剖、手術到達法を習熟した方から非常に有用との評価を受けた。

コース開催条件
献体を使った手術トレーニングコースが成功裏に開催されるには、以下の五項目の条件を満たさなければならない。

- ①学内外の医師への手術教育に対する解剖学教室の深い理解と協力
- ②十分な献体数
- ③献体されるご本人やご家族の用途への理解と同意
- ④内視鏡、顕微鏡関連会社等の機器の準備
- ⑤関連各部署(全体を通じて医局の仲間、下垂体部での耳鼻科医師)の協力を得る。

コース開催から期待するものは以下の三項目である。

- ①平成十六年度より初期研修制度が必須化され、大学以外に初期・後期研修医教育認定施設が増設された形となった。初期研修医のみならず、専門医を目指す後期研修医の大学離れが懸念されている。教育・研究を目的とした献体の利用は大学にのみ許された特権である。大学のみがこの素晴らしい教材を所有し、それを使った手術トレーニングコースを施行しうる。若い医師や学生に、大学がこうした優れた特徴を有する教育施設であることを認識してもらいたい。
- ②事前に学内の掲示板に「初期研修医、学生の無料見学歓迎」のバナーを掲示し、数名の参加者を指示した。数名の参加者が高い興味を示した。彼ら自身と周囲の仲間に千葉大の脳神経外科学教室は、研修医や学生に教育熱心であるという印象を与えられた成功である。
- ③二日間を通じて若い医局員が他大学の人たちが欲談・交流する機会があった。若い医師にとり知己が増えていくことは、大きな財産となる。

献体利用の問題点
現時点の問題点には二項目がある。

- ①未知の感染症が潜在する可能性
- ②医師の手術トレーニングに献体を使うかどうかの法的根拠

法律問題に関して、最近マスコミでも取り上げられており、読売新聞二〇〇七年九月の掲載記事から抜粋した。まとめ、記載する。

日本では医師のトレーニングに献体を使うことが法律上認められるかどうか、実は曖昧である。遺体を傷つけることは、刑法の死体損壊罪で

禁止されている。ただし、死体解剖保存法は、医学生が献体を使う解剖実習などの「正常解剖」、死因などを調べるための「病理解剖」については認められている。厚生労働省は二〇〇七年八月、献体を使った医師のトレーニングについて、「法律が認める」正常解剖、病理解剖のいずれにも該当しない」とした。厚労省としては、あくまで医師の研修を正常解剖と認め、社会的な合意が必要という立場だ。欧米では、医学の発展のために献体を使うことに規制はなく、医師の手術研修は普及している。正常解剖に何を含めるかは行政解釈という見解もある。

厚労省は、医師の研修の必要性、それが正常解剖と解釈できるか、あるいは法的枠組みが必要かを検討するため、日本外科学会など関係学会の意見を聞いていく。

まとめ
手術の安全性と確実性を確保するため、脳神経外科医が手術の腕を磨き、患者を実験台にしない環境を整備することは重要だ。私たちが利用した献体は、献体であることと考える。献体の利用は法的な枠組みが必要であれば、行政にはそれを早急に確立して欲しい。医療不信をなくす大切なプロセスである。

私たちは、献体を使った手術トレーニングは有用であり、それを実施できる環境にしている。トレーニングに感じていて、トレーニングコースを開催し若い医師を育成していくことが、社会貢献につながることを信じている。今後とも、千葉大学脳神経外科学は、それを実行できるように環境整備に努めて行きたい。解剖学教室

新たな出発のとき

薬学研究院教授

西田篤司

千葉大学大学院薬学研究院は明治二十三年七月第一高等中学校薬学科として発足以来、第一高等学校薬学部薬学科(明二十七・九)、千葉医学専門学校薬学科(明三十四・四)、千葉医科大学附属薬学専門学校(大十二・十四・五)と変遷を重ね、平成十三年には大学院組織を改組し大学院薬学薬学府と大学院薬学研究院が設置され現在に至っております。古い校舎の写真は石井伊都子准教授がまとめた「マシヤ二〇一〇年二月号」に掲載されており、この間、興味のある方は是非ご覧下さい。この間、薬学部は昭和四十四年に亥鼻地区より西千葉地区へ移転しました。西千葉地区へ移転したことが、大学院薬学薬学府の発足に伴い、医学部との研究・教育における連携を深めるため平成十六年四月には亥鼻地区に医薬系総合研究棟が建設され西千葉地区より医療系・生物系二研究室が移転しました。その後、残りの研究室の移転を実現するべく二期棟建築予算を申請してはおり、全算が経済情勢の悪化に伴い、研究室の移転は実現せず、亥鼻・西千葉の分裂学部として研究・教育を行わなくなりました。これまで五年以上わたり、学生・教員ともに亥鼻・西千葉地区を頻りに行き来し、千葉大学は、移動の際の事故なども心配の一つでした。また、西千葉地区の

体的にその準備が進んでいくと聞く。大いに賛成し、実現に向け応援したい。

建物は老朽化の一途をたどり耐震補強や部分的な修復を行いつつも、亥鼻医薬系総合研究棟との教育環境の格差は広がり学生からの不満の声も多くなるといふに成りました。

この度、ようやく念願の医薬総合研究棟二期棟(仮称)の建築が認められました。現在亥鼻地区グラウンドに面する建築予定地の遺跡調査を行っており予定では平成二十三年三月には完成し、遂にすべての薬学研究院の研究室の移転が完了する運びです。その間、亥鼻地区の皆様には工事車両の通過、騒音などでご迷惑をおかけするかもしれません。平成十八年に導入された薬学六年制も最上級生が五年生となり、長期病院・薬局実習がスタートします。新しい医療の確立のために今一層、医・薬・看護の連携が必要になるのかと思ひます。平成二十二年度は薬学部開設百二十周年にあたり記念事業を計画しております。薬学百二十周年の歴史は人の歴史であり、先人の努力を踏まえ、亥鼻地区で新たな薬学研究院がスタートします。これまで薬学部の歴史の中で亥鼻奨学会からは研究・教育のために多大なご支援を戴いて参りました。大変感謝申し上げます。また、薬学研究院として更にかかりとサポートしていきたいと思ひます。

平成21年度事業報告

自平成21年4月1日 至平成22年3月31日

財団法人 猪之鼻奨学会

1. 事業の状況

(1) 研究補助金(120万円)の助成 内訳 各30万円 4件

医学研究院から3名の推薦、薬学研究院から1名の推薦があった。

Table with 4 columns: 交付研究者, 所属, 職名, 研究題目. Rows include researchers like 赤澤宏 and 土地方礼.

(2) 奨学金貸与 希望者なし

(3) 学術奨励金15万円の助成

○千葉医学会(学会誌論文掲載料)10万円

○薬学研究院(学会誌論文掲載料)5万円

(4) 卒後・生涯教育助成金の交付 20万円

○医学部附属病院 周産期母性科に10万円 ○薬友会教育セミナーに10万円

(5) 薬草園の整備管理 10万円

(6) 猪之鼻奨学会会報の発行 13,500部発行

寄付者御芳名録(敬称略)
平成二十一年五月十五日 辺和夫(名誉教授) 拾万円
平成二十一年五月二十一日 部孝道(医)同和会理事長 拾万円
平成二十一年五月二十七日 薬友会(薬学部同窓会) 貳拾万円
平成二十一年七月八日 七夕の会(薬学昭和五十三年卒業生有志) 七万円
平成二十二年三月八日 なのはな同窓会(医学部同窓会) 三拾万円
平成二十二年三月十七日 田二美枝(千葉大学元准教授) 五万円
合計 八拾二万円

寄附のお願い
財団法人猪之鼻奨学会は多くの方々のご善意の寄附金により奨学事業を実施しています。しかしながら近年、寄附金額が減少し財政難となつております。何卒皆様方からのご支援とご協力を賜りたくお願い申し上げます。一口5,000円ですが、ご都合に応じ何口でも結構でございます。同封の郵便振替用紙にてお振込み下さい。財団法人猪之鼻奨学会 理事・評議員一同

収支計算書

自平成21年4月1日 至平成22年3月31日

1. 収入の部

2. 支出の部

(単位:円)

Main financial statement table with columns for 勘定科目, 予算額, 決算額, 差異. Divided into 収入の部 and 支出の部.

桜の季節が終わり、春風の心地よい季節となりました。新入生を迎えた亥鼻キャンパスが一年で最も華やいている時のように思います。大学病院にもし棟の改修・移転が終わり、ひがし棟と合わせてふたつの病棟で診療が行われるようになり、患者のアメニティは格段に向上したようです。また、本号に西田篤司教授が書かれておられる如く、待ちに待った医薬総合研究棟二期棟の建設も始まるよう、完成すれば薬学研究院の研究室がすべて亥鼻キャンパスに移ることになり、医学部研究院と薬学研究院との連携も更に深まるものと期待しております。日本経済もリーマンショックから少しずつ回復基調にあるようですが、まだ低金利政策が続いており、猪之鼻奨学会を取り巻く状況は相変わらず厳しいものがあります。本奨学会は大正天皇の即位を記念して作られたという長い伝統のある組織です。学生への奨学金貸与と研究補助という大切な活動を続けていく上でも、ぜひ皆様のご支援をお願いいたします。(服部孝道(会長))

編集後記